

小・中・高 合同

平成 2 5 年度

教育研究員研究報告書

学校保健

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点（ねらい）	1
III	研究の方法	2
IV	研究の内容	
1	調査研究	2
2	事例研究	1 6
V	研究のまとめ	2 0
・	参考資料 調査集計結果一覧及び調査用紙	2 1

研究主題「東京都公立学校における養護教諭と スクールカウンセラーの連携に関する実態について」

I 研究主題設定の理由

児童・生徒のいじめ、問題行動や不登校等に適切に対処するためには、児童・生徒の悩みや不安等の相談を受け止め、その後の指導に生かすことが大切である。児童・生徒の教育相談活動は、教職員にとって不可欠であり、教育活動の基盤とも言えるものである。そのため、学校の教育活動全体を通じて、全ての教職員が適宜・適切に行うものとなっている。

近年は、社会環境の変化に伴い、児童・生徒が抱える心の問題が多様化・深刻化していることや、事故や災害等における児童・生徒や保護者の心のケアなどの対応も求められることなど、学校における教育相談・カウンセリング機能の充実はますます重要となってきた。

このため、スクールカウンセラー等の臨床心理に専門的な知識・経験を有する学校外の専門家を活用することが効果的であり、積極的に導入すべきであるとの要請が多くなってきた。文部科学省では、平成7年度からスクールカウンセラー配置の調査研究を開始し、平成18年度には全国の公立学校等約1万校に配置した。その成果として、いじめ、不登校、暴力行為などの問題行動の発生率が減少したと報告する学校が増加してきた。

東京都教育委員会は、平成7年度からスクールカウンセラーの配置を開始し、平成15年度から公立中学校の全校配置、平成20年度から小学校に、平成23年度からは高等学校へと大幅に配置を拡大してきた。本年度は、心の問題の対応の一層の充実を図るため、全ての小学校・中学校・高等学校にスクールカウンセラーを配置し、相談活動の充実を図ることとした。

学校は、スクールカウンセラーの役割を明確にし、児童・生徒の心の問題の対応に、より効果的に活用していかなければならない。しかしながら、配置されて10年以上の学校、今年度新たに配置された学校、区市町村独自の配置により複数配置されている学校等があり、相談体制の実相は様々である。

中央教育審議会答申において、養護教諭は児童・生徒の心身の健康づくりを進め、校内外の関係者との連絡・調整を行うコーディネーターの役割を担うものと期待されてきた。特に、児童・生徒の心身の変調を発見できる養護教諭とスクールカウンセラーとの連携は重要である。養護教諭とスクールカウンセラーの連携は、それぞれの専門性を相互に高めあうとともに、学校組織全体の課題解決力の向上に資するのではないかと考えた。

そこで、本研究では、本年度の全校配置に伴い、スクールカウンセラーの配置・活用の状況及び養護教諭との連携状況等の実態を明らかにし、今後、養護教諭とスクールカウンセラーがどのように連携していけばよいのか研究していくこととし、本主題を設定した。

II 研究の視点（ねらい）

- 1 都内公立小学校・中学校・高等学校・中等教育学校に勤務する養護教諭を対象に、スクールカウンセラーの配置状況及び養護教諭とスクールカウンセラーの連携に係るアンケート調査を行い、その結果を取りまとめ、実態を把握する。また、結果を分析し、スクールカウンセラーの活用状況及び養護教諭とスクールカウンセラーの連携等の問題点を明らかにする。
- 2 アンケート調査から、養護教諭とスクールカウンセラーが連携し、成功している実践について事例研究し、有効な支援・連携の在り方について理解を深める。

Ⅲ 研究の方法

1 基礎研究

先行研究及び参考資料（国及び東京都教育委員会がスクールカウンセラーを配置した経緯及び活用に係るガイドライン等）を確認する。

2 調査研究

養護教諭とスクールカウンセラーの連携に関する実態を把握するため、都内公立学校の養護教諭に質問紙法によるアンケート調査を行い、集計・分析する。

3 事例研究

養護教諭とスクールカウンセラーが連携した成功事例を分析し、有効な支援・連携の在り方について検討する。

Ⅳ 研究の内容

1 調査研究

(1) 調査の目的

ア スクールカウンセラーの配置状況及び養護教諭とスクールカウンセラーの連携に係る実態を把握する。

イ スクールカウンセラーの活用状況及び養護教諭とスクールカウンセラーの連携等の問題点を明らかにする。

(2) 調査の方法及び回収状況

ア 調査期間 平成 25 年 9 月～10 月

イ 調査対象 都内公立学校（特別支援学校を除く。）の養護教諭

ウ 配布回収状況 配布数及び有効回答が得られた調査票回収状況は下表の通り

	小学校	中学校	高校 (中等教育学校含む) ※	合計
配布数	1298	624	194	2116
回収数	869	463	124	1456
回収率	66.9 %	74.2 %	63.9 %	68.8 %

※本調査結果において校種別に分ける際、高等学校（全日制・定時制・通信制）中等教育学校を合わせて「高校(中等含む)」とした。

エ 調査項目

(ア) 養護教諭及び現任校について

(イ) 現任校に現在、配置されているスクールカウンセラーについて

(ウ) 養護教諭とスクールカウンセラーの連携について

(エ) スクールカウンセラーとの連携事例について

オ 実施方法

質問紙法（選択肢、記述式による回答）による。調査票等を小・中学校（区市町村教育委員会経由）及び都立学校（TAIMS メール）に配布し、調査実施を依頼した。

カ 調査集計に当たっての留意事項

集計する際、質問に対して明らかに誤っている、無回答になっているなどの場合は無効回答とし、有効回答のみで分析を行った。

回答の構成比は小数第 2 位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

(3) 調査結果

ア 単純集計結果

(7) 養護教諭及び現任校について

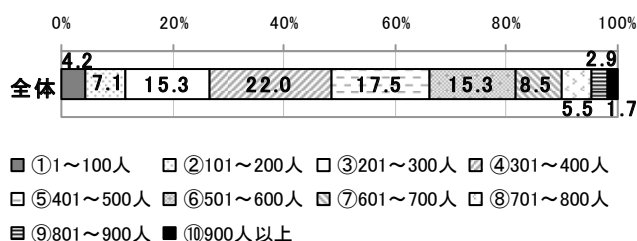
《問1 勤務している校種について》

勤務している校種について、①小学校は全体の59.7%（869）、②中学校は31.8%（463）、③高等学校（全日制）は6.3%（91）、④高等学校（定時制・通信制）は2.0%（29）、⑤中等教育学校は0.3%（4）であった。

《問2 在籍児童・生徒数について》

在籍児童・生徒数について、全体で最も多かったのは④301～400人で22.0%、次いで⑤401～500人で17.5%、その次に③201～300人と⑥501～600人でいずれも15.3%であった。

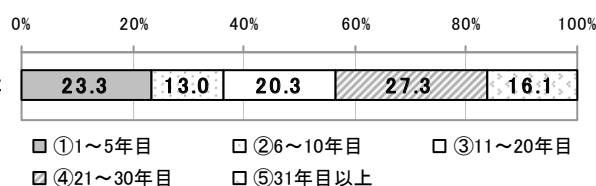
問2 在籍児童・生徒数



《問3 養護教諭の経験年数について》

養護教諭の経験年数について、全体で最も多かったのは④21～30年目で27.3%、次いで①1～5年目で23.3%、③11～20年目で20.3%であった。最も少なかったのは②6～10年目で13.0%であった。

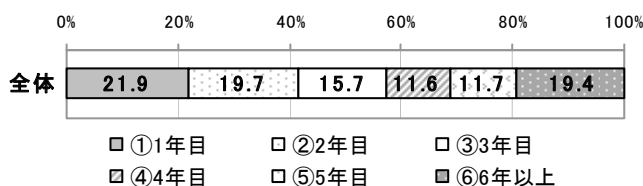
問3 養護教諭の経験年数



《問4 現任校の在籍年数について》

現任校の在籍年数について、全体で最も多かったのは①1年目で21.9%、次いで②2年目で19.7%、⑥6年目以上で19.4%、③3年目で15.7%であった。

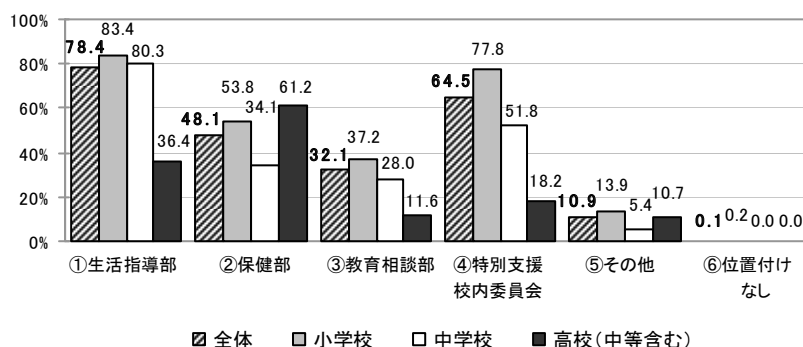
問4 現任校の在籍年数



《問5 養護教諭が位置付けられている分掌組織等について（複数回答）》

養護教諭が位置付けられている分掌組織等について、全体で最も多かったのは①生活指導部で78.4%、次いで④特別支援校内委員会で64.5%、②保健部で48.1%であった。校種別にみると、小・中学校で最も高い割合は①生活指導部だが、高校

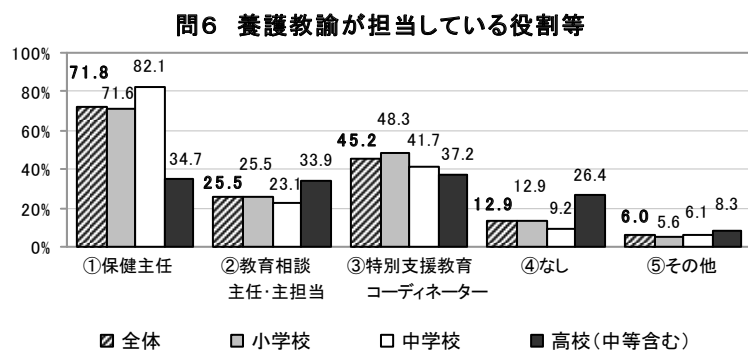
問5 養護教諭が位置付けられている分掌組織等



（中等含む）は②保健部が最も多く、次いで①生活指導部であった。

《問6 養護教諭が担当している役割等について（複数回答）》

養護教諭が担当している役割等について、全体で最も多かったのは①保健主任で71.8%、次いで③特別支援教育コーディネーターで45.2%であった。小・中学校は①保健主任が最も割合が高く、次いで③特別支援教育コーディネーターの順であった。

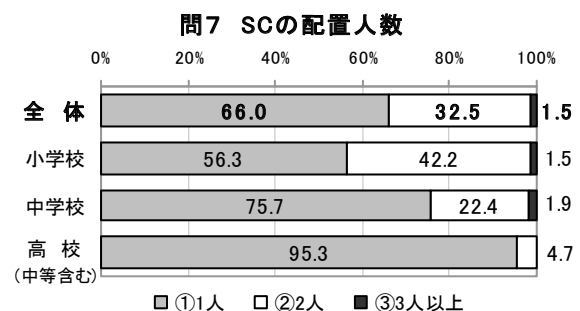


中学校は①保健主任が82.1%と特に高かった。③特別支援教育コーディネーターと回答した割合が最も高かった校種は、小学校で48.3%であった。④なしと回答した割合が最も高かった校種は、高校（中等含む。）で26.4%であった。

(イ) 現任校に、現在配置されているSCについて ※スクールカウンセラーをSCと示す。

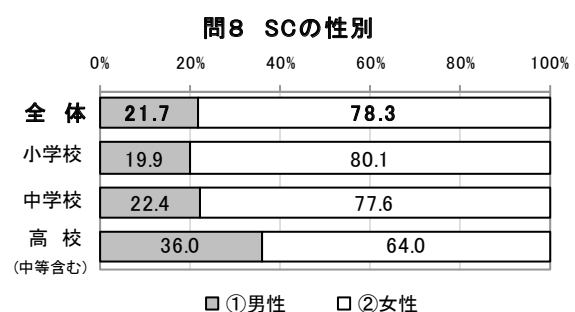
《問7 SCの配置人数について(※都のほか区市町村配置も含む。巡回相談員は含まない。)》

SCの配置人数について、小・中・高ともに①1人と回答した割合が最も高く、全体で①1人と回答した割合は66.0%であった。②2人と③3人以上と回答した複数配置の学校は、小学校が43.7%、中学校は24.3%であった。しかし、高校（中等含む。）は複数配置が4.7%で、ほとんどが1人配置であった。



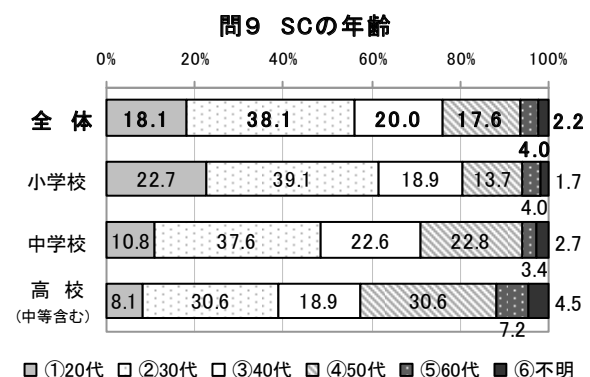
《問8 SCの性別について》

SCの性別について、全体で①男性と回答した割合は21.7%、②女性と回答した割合は78.3%で、女性の方が男性の約4倍であった。校種別では、①男性は、小学校が19.9%、中学校が22.4%であったが、高校（中等含む。）は36.0%で、小・中学校と比べて割合が高かった。



《問9 SCの年齢について》

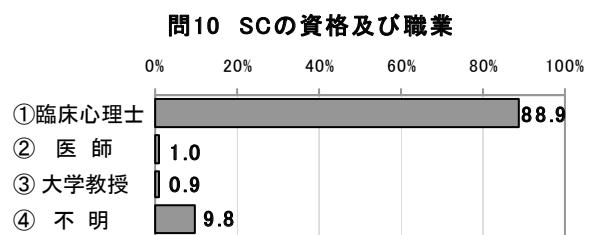
SCの年齢について、全体で最も多かったのは②30代で38.1%であった。小学校は①20代と回答した割合が22.7%で、中学校・高校（中等含む。）に比べ高く、高校（中等含む。）は④50代と回答した割合が30.6%で小学校の約2倍であった。



《問 10 SC の資格及び職業について》

SC の資格及び職業について、全体の約 9 割が①臨床心理士と回答した。

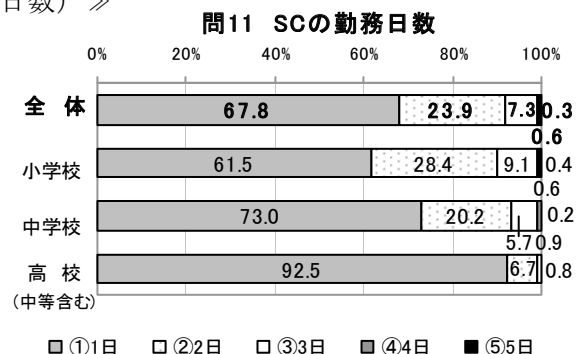
※この設問は複数回答を想定していなかったが、回答が得られた②医師 17 名のうち 1 名が①臨床心理士と複数回答、③大学教授 15 名のうち 10 名が①臨床心理士と複数回答であった。



《問 11 SC の勤務日数について（1 週間の勤務日数）》

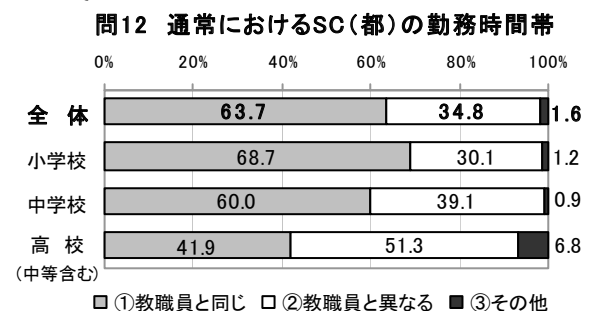
SC の勤務日数について、全体で最も多かったのは① 1 日で 67.8%であった。特に高校（中等含む。）は 9 割以上であった。小学校の約 4 割、中学校の約 3 割の学校が、2 日以上であった。

※延べ日数で回答した。



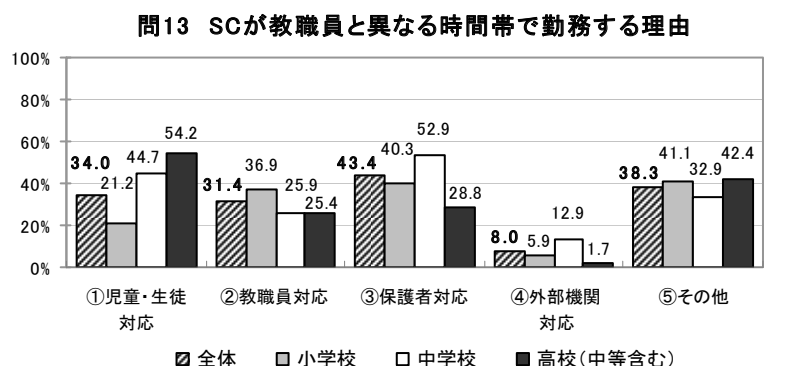
《問 12 通常における SC（都）の勤務時間帯について》

通常における SC（都）の勤務時間帯について、①教職員と同じと回答した割合は全体の 63.7%であった。②教職員と異なると回答した割合は、小学校が 30.1%、中学校が 39.1%、高校（中等含む。）が 51.3%であった。特に高校（中等含む。）は半数以上が異なる時間帯であった。



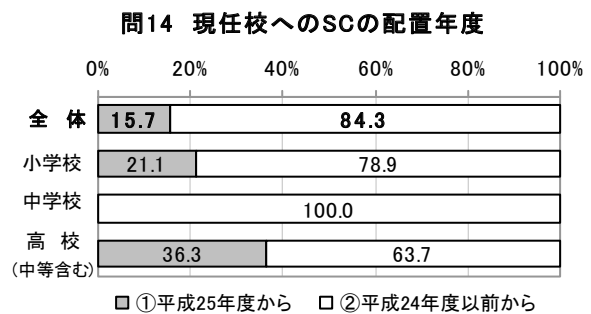
《問 13 SC が教職員と異なる時間帯で勤務する理由について（複数回答）》

SC が教職員と異なる時間帯で勤務する理由について、全体で多かったのは③保護者対応で 43.4%、⑤その他で 38.3%であった。小学校は⑤その他と回答した割合が 41.1%で最も高く、次いで③保護者対応、②教職員対応であった。①児童・生徒対応と回答した割合は 21.2%で、中学校・高校に比べ少なかった。中学校は③保護者対応と回答した割合が 52.9%で最も高く、次いで①児童・生徒対応であった。高校（中等含む。）は①児童・生徒対応と回答した割合が 54.2%で最も高かった。



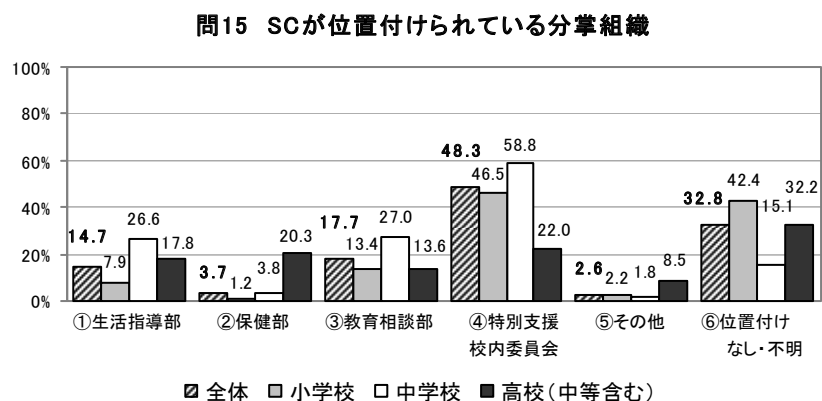
《問 14 現任校への SC の配置年度について》

現任校への SC の配置年度について、①平成 25 年度から配置されたと回答した割合は全体の 15.7%であった。中学校は平成 15 年度に全校配置されたが、①平成 25 年度からの配置は、小学校が 21.1%、高校（中等含む。）が 36.3%で、高校（中等含む。）が最も高かった。



《問 15 SC が位置付けられている分掌組織について（複数回答）》

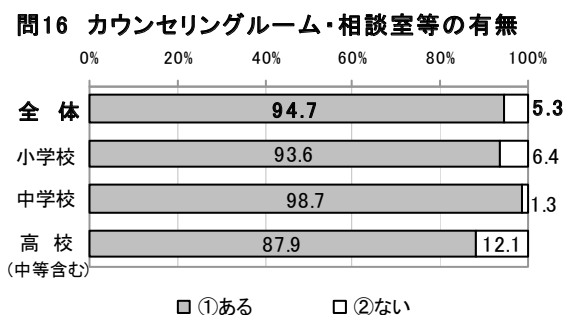
SC が位置付けられて
いる分掌組織について、
全体で最も多かったのは
④特別支援校内委員会の
48.3%であった。特に中学
校は 58.8%と最も高い割
合であった。高校（中等
含む。）は②保健部と回答
した割合が、小・中学校



と比べて高かった。小学校は①生活指導部と回答した割合が、中学校・高校（中等含む。）に比べ低かった。⑥位置付けなし・不明と回答した割合は、中学校が 15.1%で、小学校の 42.4%、高校（中等含む。）の 32.2%と比べ低かった。

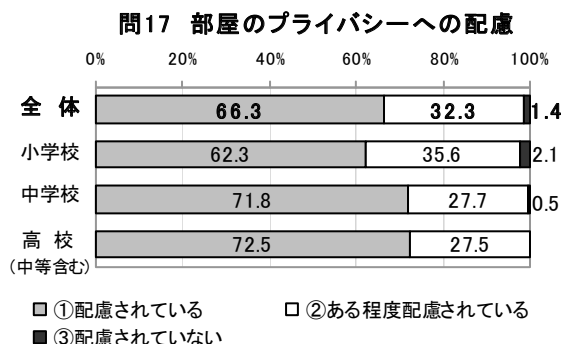
《問 16 カウンセリングルーム・相談室等の有無について》

カウンセリングルーム・相談室等の有無について、専用の部屋が①あると回答した割合は、全体で 94.7%であった。



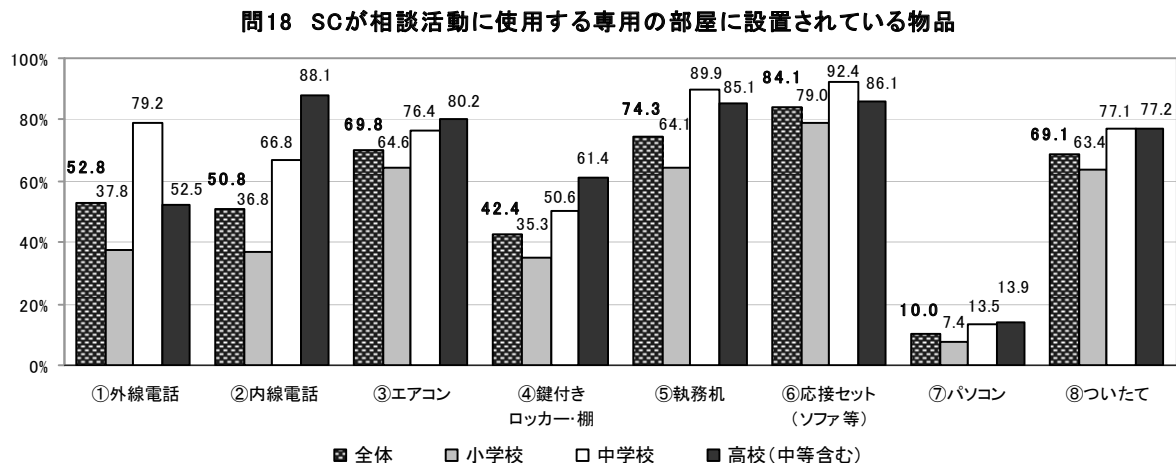
《問 17 部屋のプライバシーへの配慮について》

部屋のプライバシーへの配慮について、①配慮されている、②ある程度配慮されていると回答した割合を合わせると、全体で 98.6%であった。



《問 18 SC が相談活動に使用する専用の部屋に設置されている物品について（複数回答）》

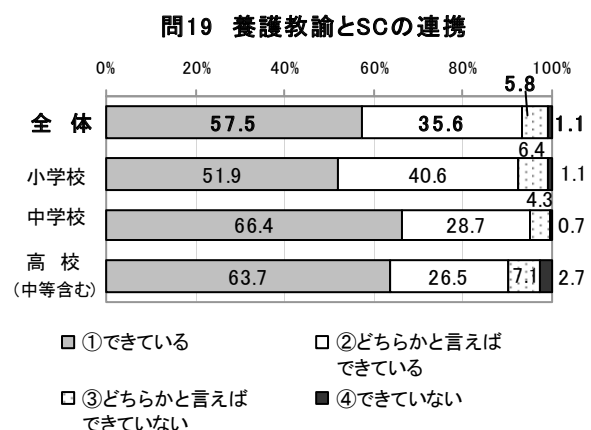
SC が相談活動に使用する専用の部屋に設置されている物品について、全体で最も多かったのは⑥応接セット（ソファ等）で 84.1%であった。③エアコン、⑤執務机、⑧つい立てと回答した割合は約 7 割であった。①外線電話と回答した割合は、中学校は 79.2%で最も多かった。②内線電話と回答した割合は、高校（中等含む。）が 88.1%と最も多かった。小学校は、①外線電話、②内線電話と回答した割合がどちらも 3 割強であった。⑦パソコンと回答した割合は全体で 10.0%であった。



(ウ) 養護教諭と SC の連携状況について

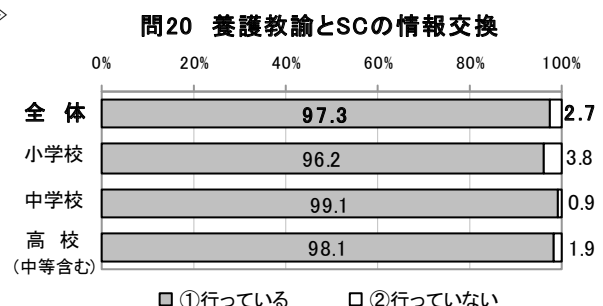
《問 19 養護教諭と SC の連携について》

養護教諭と SC の連携について、全体で①できている、②どちらかと言えばできていると回答した割合を合わせると 93.1%であり、小・中・高ともに 9 割以上であった。中学校・高校（中等含む。）は①できていると回答した割合が 6 割以上であった。



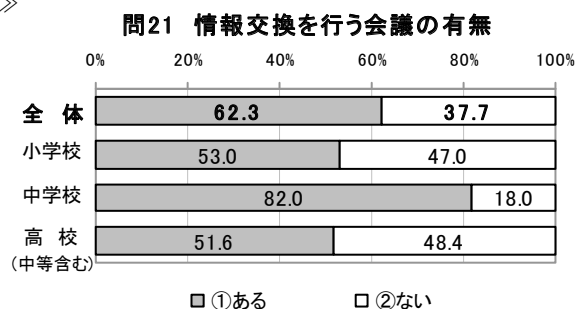
《問 20 養護教諭と SC の情報交換について》

養護教諭と SC の情報交換について、全体で①行っていると回答した割合は 97.3%であり、小学校が 96.2%、中学校が 99.1%、高校（中等含む。）が 98.1%で、いずれも高い割合であった。



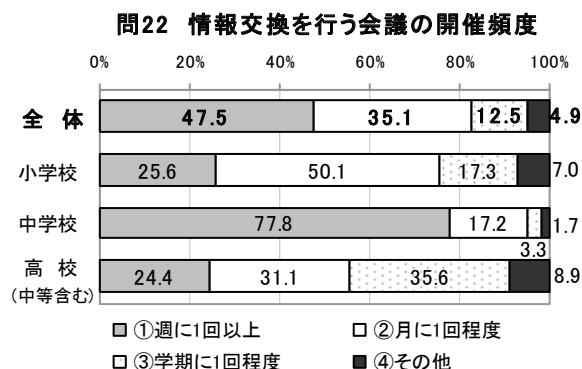
《問 21 情報交換を行う会議の有無について》

情報交換を行う会議の有無について、全体で①あると回答した割合は 62.3%で、中学校が 82.0%に対して、小学校は 53.0%、高校(中等含む。)は 51.6%と低かった。



《問 22 情報交換を行う会議の開催頻度について》

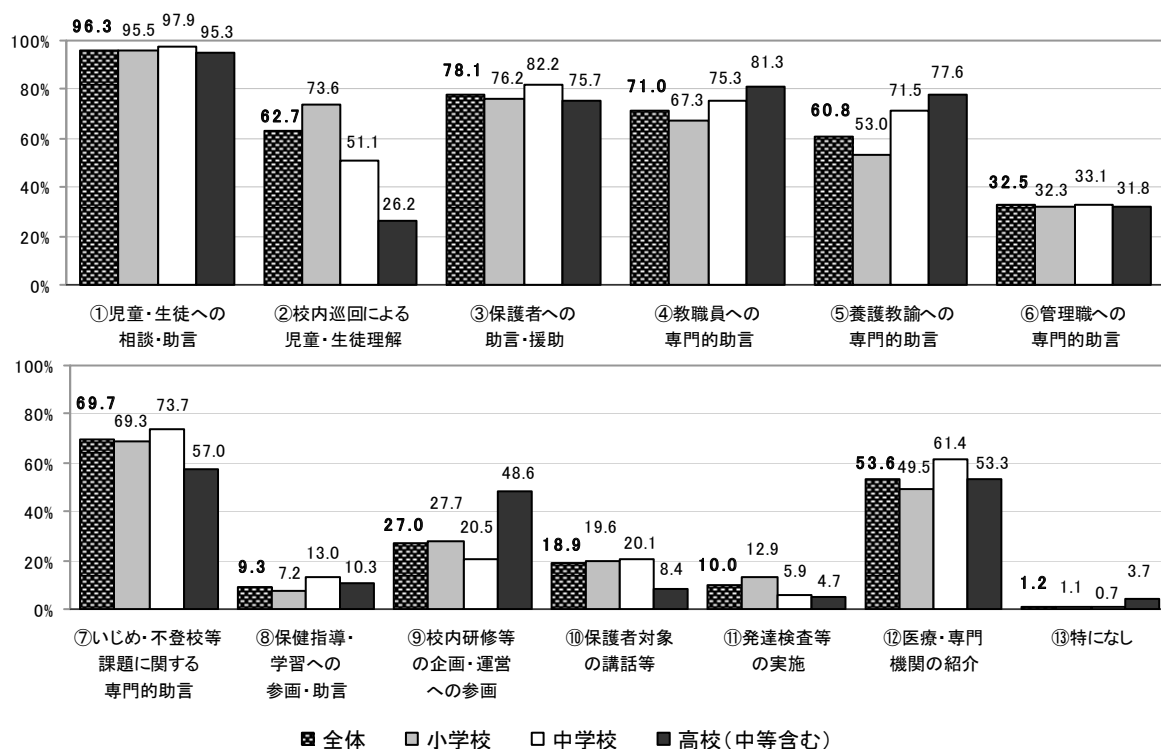
情報交換を行う会議の開催頻度について、全体で①週に 1 回以上行っていると回答した割合は 47.5%で、中学校が 77.8%に対して、小学校は 25.6%、高校 (中等含む。)は 24.4%と低かった。



《問 23 養護教諭と SC が連携している内容について》

養護教諭と SC が連携している内容について、小・中・高ともに①児童・生徒への相談・助言と回答した割合は 95%以上であった。小・中学校は③保護者への助言・援助と回答した割合が 2 番目に高いのに対して、高校 (中等含む。)は④教職員への専門的助言と回答した割合が 2 番目に高かった。

問23 養護教諭とSCが連携している内容



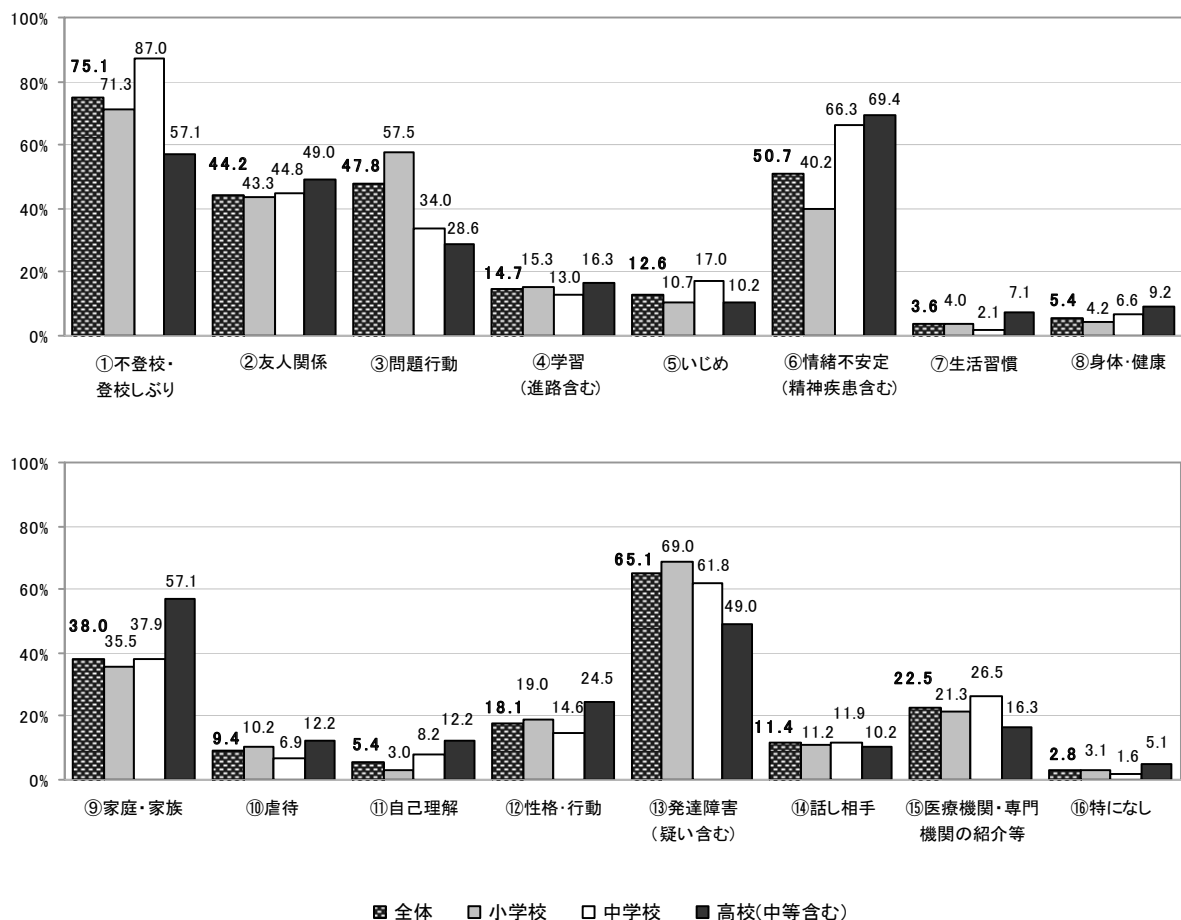
《問 24 SC との連携で行われる相談・助言の内容（5 つ以内選択）》

SC との連携で行われる相談・助言の内容について、全体として①不登校・登校しぶりと回答した割合が高く、小学校は 71.3%、中学校は 87.0%であった。高校（中等含む）で回答した割合が最も高かったのは⑥情緒不安定（精神疾患含む。）で 69.4%であった。小学校は⑬発達障害（疑い含む。）と回答した割合が高く 69.0%であった。高校（中等含む。）は、⑨家庭・家族と回答した割合が 57.1%、②友人関係と回答した割合は、小学校は 43.3%、中学校は 44.8%、高校（中等含む。）は 49.0%であった。

	小学校	中学校	高校（中等含む。）
1 位	①不登校・登校しぶり	①不登校・登校しぶり	⑥情緒不安定（精神疾患含む。）
2 位	⑬発達障害（疑い含む。）	⑥情緒不安定（精神疾患含む。）	①不登校・登校しぶり ⑨家庭・家族
3 位	③問題行動	⑬発達障害（疑い含む。）	
4 位	②友人関係	②友人関係	②友人関係 ⑬発達障害（疑い含む。）
5 位	⑥情緒不安定（精神疾患含む。）	⑨家庭・家族	

小学校は⑬発達障害（疑い含む。）と回答した割合が高く 69.0%であった。高校（中等含む。）は、⑨家庭・家族と回答した割合が 57.1%、②友人関係と回答した割合は、小学校は 43.3%、中学校は 44.8%、高校（中等含む。）は 49.0%であった。

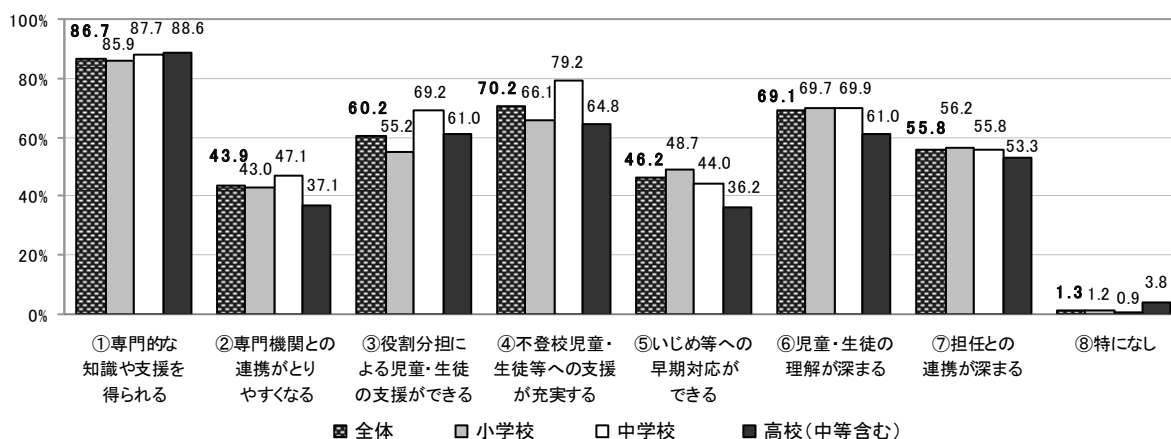
問24 SCとの連携で行われる相談・助言の内容



《問 25 SC と連携する上での利点について（複数回答）》

養護教諭が SC と連携する上での利点について、小・中・高ともに①専門的な知識や支援を得られると回答した割合が最も高く 86.7%であった。その他、全校種で 5 割以上が利点と回答したのが③役割分担による児童・生徒の支援ができる、④不登校児童・生徒等への支援が充実する、⑥児童・生徒の理解が深まる、⑦担任との連携が深まるの 4 項目であった。その他、②専門機関との連携と回答した割合は、全体で 43.9%、⑤いじめ等への早期対応と回答した割合は、全体で 46.2%であった。⑧特になしと回答した割合は、小学校が 1.2%、中学校が 0.9%、高校（中等含む。）が 3.8%であった。

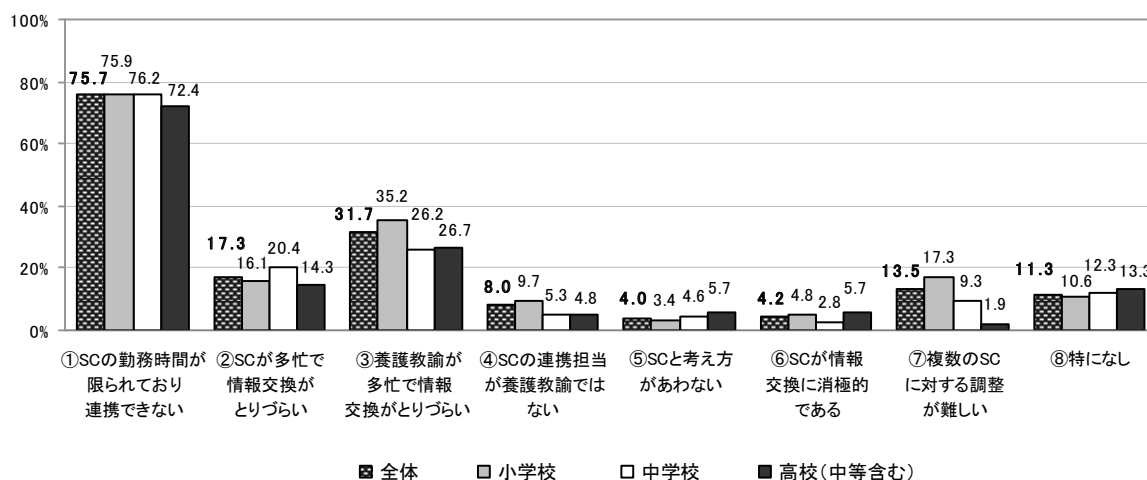
問25 SCと連携する上での利点



《問 26 SC と連携する上での困難点（複数回答）》

養護教諭が SC と連携する上での困難点について、小・中・高ともに①SC の勤務時間が限られており連携できないと回答した割合が最も高く 75.7%であった。次いで③養護教諭が多忙で情報交換がとりづらい、②SC が多忙で情報交換がとりづらいが多かった。⑧特になしと回答した割合は、小学校が 10.6%、中学校が 12.3%、高校（中等含む。）が 13.3%であった。

問26 SCと連携する上での困難な点



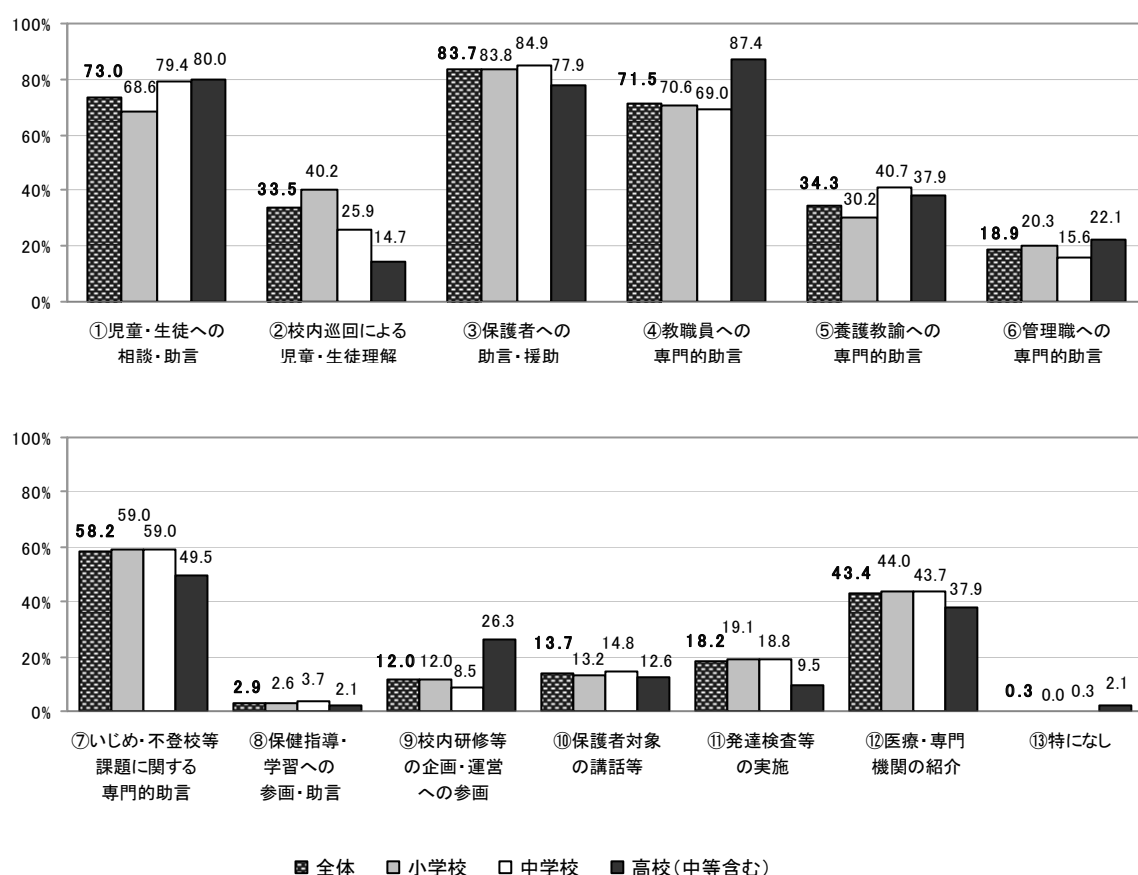
《問 27 SCに期待すること（5つ以内選択）》

SCに期待することについて、小・中・高ともに①児童・生徒への相談・助言、③保護者への助言・援助、④教職員への専門的助言、⑦いじめ・不登校等課題に関する専門的助言、⑫医療・専門機関への紹介の割合が高く、全

	小学校	中学校	高校（中等含む。）
1位	③保護者への助言・援助	③保護者への助言・援助	④教職員への専門的助言
2位	④教職員への専門的助言	①児童・生徒への相談・助言	①児童・生徒への相談・助言
3位	①児童・生徒への相談・助言	④教職員への専門的助言	③保護者への助言・援助
4位	⑦いじめ・不登校等課題に関する専門的助言	⑦いじめ・不登校等課題に関する専門的助言	⑦いじめ・不登校等課題に関する専門的助言
5位	⑫医療・専門機関への紹介	⑫医療・専門機関への紹介	⑫医療・専門機関への紹介

体的に相談・助言や対応への期待が高かった。②校内巡回による児童・生徒理解は、小学校が40.2%であったが、中学校は25.9%、高校は14.7%と割合が低くなった。④教職員への専門的助言は、⑤養護教諭への専門的助言と⑥管理職への専門的助言に比べ割合が高かった。⑧保健指導・学習への参画・助言は、小・中・高ともに割合が低かった。⑨校内研修等の企画・運営への参画は、高校（中等含む。）は、小・中学校と比べ割合が高かった。⑪発達検査等の実施は、小学校が19.1%、中学校が18.8%で、高校（中等含む。）が9.5%であった。

問27 SCに期待すること



イ クロス集計の結果と考察

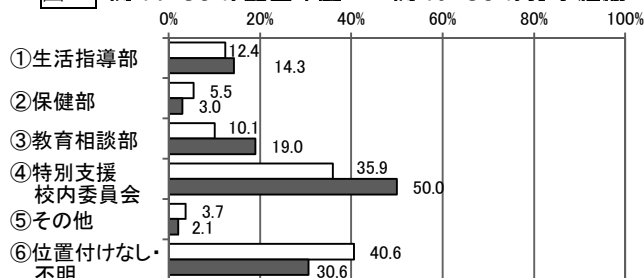
クロス集計においては、「SC の配置年度」との関連性、及び「養護教諭と SC の連携の有無」との関連性について、分析を行った。

(7) 「SC の配置年度」との関連性

《SC が位置付けられている分掌組織との関連》

- ・平成 24 年度以前からの配置校は、SC が位置付けられている分掌組織について④特別支援校内委員会と回答した割合が 50.0%と最も高かった。一方、平成 25 年度からの配置校では、⑥位置付けなし・不明と回答した割合が 40.6%と最も高かった。図 1

図 1 問 14 SC の配置年度 × 問 15 SC の分掌組織



- ・平成 24 年度以前からの配置校に比べ、平

□ 平成25年度からの配置校 ■ 平成24年度以前からの配置校

成 25 年度からの配置校は、SC の分掌組織への位置付け、教育相談体制が不十分といった傾向が見られた。「スクールカウンセラー活用ガイドライン」（東京都教育庁指導部指導企画課 平成 25 年 4 月）に基づき、全ての学校において SC を校務の分掌組織に明確に位置付け、組織的な対応が図れるようにすることとしている。平成 24 年度以前からの配置校及び平成 25 年度からの配置校共に、「位置付けなし・不明」と回答した学校がある。SC を校務分掌組織へ位置付け、組織的対応を図ることが今後の課題である。

《相談室等の有無及び相談室等に設置されている物品との関連》

- ・平成 25 年度からの配置校は、相談室等が②ないとした割合が 11.1%であった。一方、平成 24 年度以前からの配置校は、相談室等が②ないと回答した割合が 4.0%であった。図 2
- ・平成 24 年度以前からの配置校は、平成 25 年度からの配置校に比べ、全ての物品の設置率が上回っていた。また①外線電話や⑦パソコンについては、設置率の差が見られた。図 3

図 2 問 14 SC の配置年度 × 問 16 相談室等の有無

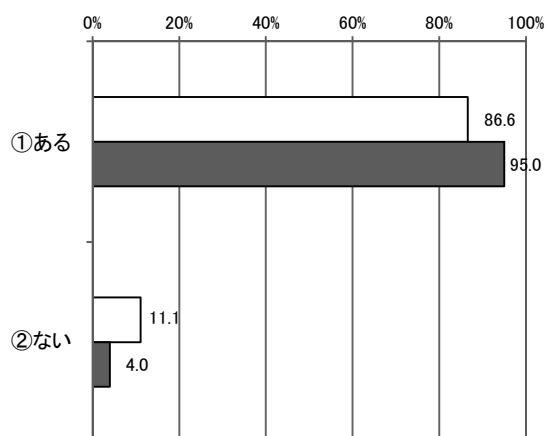
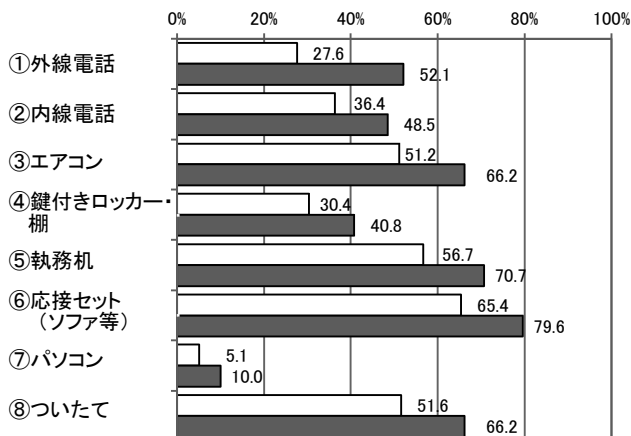


図 3 問 14 SC の配置年度 × 問 18 相談室等に配置されている物品

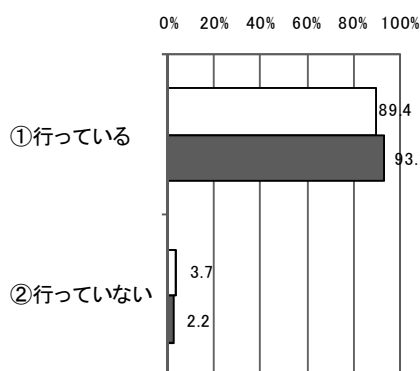


□ 平成25年度からの配置校 ■ 平成24年度以前からの配置校

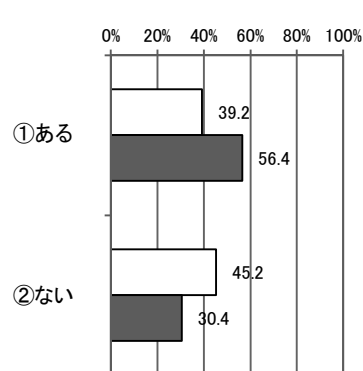
《養護教諭と SC の情報交換及び会議、頻度との関連》

- ・平成 24 年度以前からの配置校は、平成 25 年度からの配置校に比べ、情報交換を①行っていると回答した割合が高かった。【図 4】
- ・平成 24 年度以前からの配置校は、情報交換を行う会議が①あると回答した割合は 56.4% であった。一方、平成 25 年度からの配置校では、情報交換を行う会議が①あると回答した割合は 39.2% であった。【図 5】
- ・平成 24 年度以前からの配置校は、平成 25 年度からの配置校に比べ、情報交換を①週に 1 回以上行っていると回答した割合が高かった。【図 6】

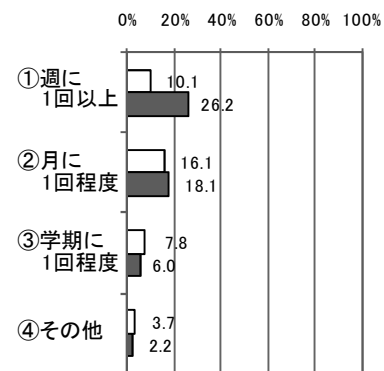
【図 4】 問 14 SC の配置年度 ×
問 20 養護教諭と SC の情報交換



【図 5】 問 14 SC の配置年度 ×
問 21 情報交換を行う会議の有無



【図 6】 問 14 SC の配置年度 ×
問 22 情報交換を行う会議の開催頻度



□ 平成25年度からの配置校 ■ 平成24年度以前からの配置校

- ・養護教諭と SC の情報交換については、配置年度による大きな差は見られなかったが、情報交換を行う会議の有無や頻度には差が見られた。平成 24 年度以前からの配置校は、定期的に校内会議を開催し、SC と養護教諭、教員が情報を共有し、相互の共通理解の下、組織的な対応、連携が進められている学校が多いといった傾向が見られた。

(イ) 「養護教諭と SC の連携の有無」との関連性

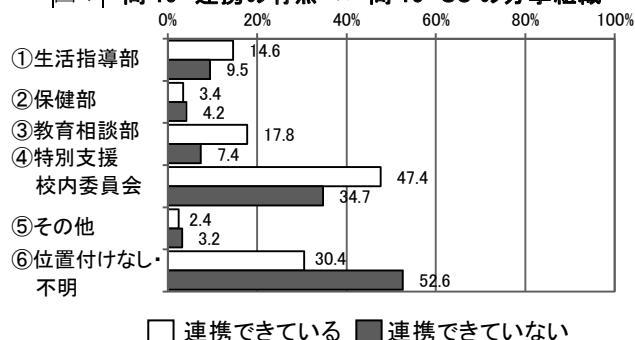
《SC が位置付けられている分掌組織との関連》

・連携できている群の約 7 割が、①生活指導部、③教育相談部、④特別支援校内委員会等の分掌組織に位置付けられていると回答していた。一方、連携できていない群の半数以上が⑥位置付けなし・不明と回答していた。[図 7]

・連携できていない群の半数以上が⑥位置付けなし・不明と回答していた。この

ことから、養護教諭と SC の連携は、SC を分掌組織に位置付けていないと連携しづらいといった状況が考えられる。

[図 7] 問 19 連携の有無 × 問 15 SC の分掌組織



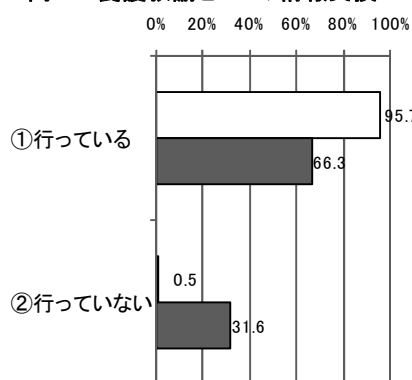
《養護教諭と SC の情報交換及び会議、頻度との関連》

・連携できている群の 0.5%が情報交換を②行っていないと回答していた。一方、連携できていない群は、31.6%が情報交換を②行っていないと回答していた。[図 8]

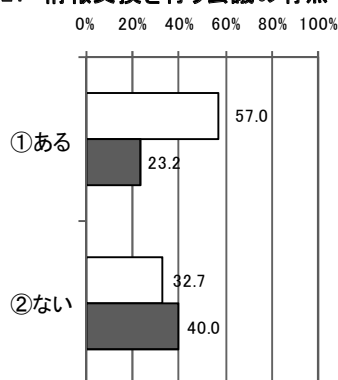
・連携できている群は、情報交換を行う会議が①あると回答した割合が 57.0%であった。一方、連携できていない群では、情報交換を行う会議が①あると回答した割合が 23.2%であった。[図 9]

・連携できている群は、①週に 1 回以上の会議を行っているという回答した割合が 25.3%であった。一方、連携できていない群は 10.5%であった。[図 10]

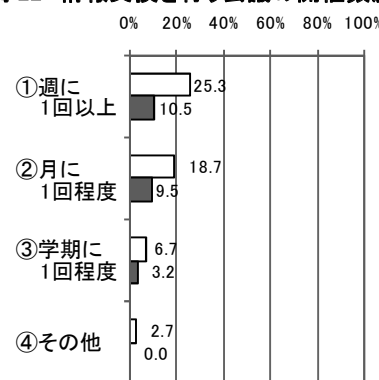
[図 8] 問 19 連携の有無 × 問 20 養護教諭と SC の情報交換



[図 9] 問 19 連携の有無 × 問 21 情報交換を行う会議の有無



[図 10] 問 19 連携の有無 × 問 22 情報交換を行う会議の開催頻度



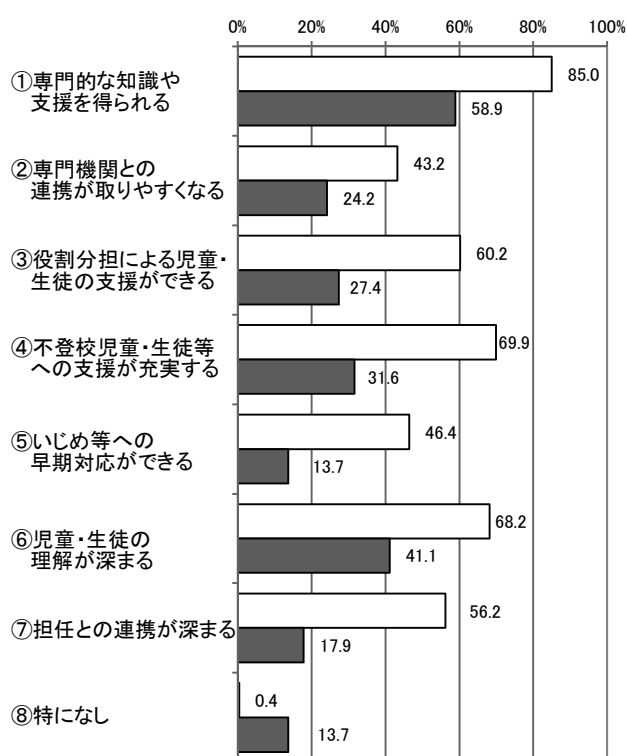
□ 連携できている ■ 連携できていない

・養護教諭と SC の連携と、情報交換の有無及び会議の内容や頻度は、関連性があることが分かった。

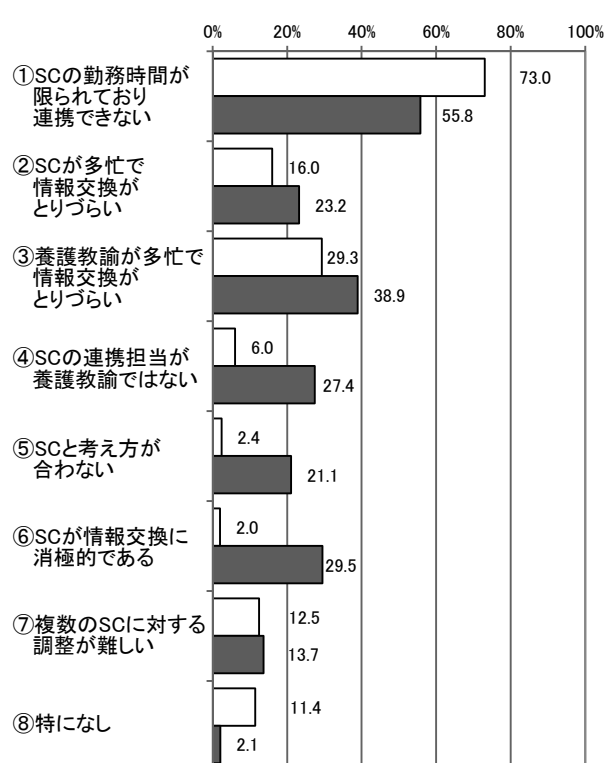
《養護教諭が SC と連携する上での利点・困難な点との関連》

- ・利点に感じていることについては、⑧特になしを除く全ての選択肢において、連携できている群の回答率が高かった。⑧特になしと回答した割合は、連携できている群は 0.4%、連携できていない群は 13.7%であり、差が見られた。【図 11】
- ・困難と感じていることについては、連携できている群と連携できていない群を比べると、④SC の連携担当が養護教諭ではない、⑤SC と考え方が合わない、⑥SC が情報交換に消極的に差が見られた。【図 12】

【図 11】 問 19 連携の有無 × 問 25 利点



【図 12】 問 19 連携の有無 × 問 26 困難点



□ 連携できている ■ 連携できていない

- ・連携できている群の利点において、⑧特になしを除く全ての選択肢において高い割合を示したことは、養護教諭と SC が連携することにより、SC の専門性及び役割の重要性について理解していると考えられる。
- ・連携できていない群の困難点として、⑤SC と考え方が合わない、⑥SC が情報交換に消極的等の回答が多く上げられた。SC の関係づくりに係る課題を解決するために、SC を分掌組織に明確に位置付け、会議による情報交換を定期的に行うとともに、日頃から養護教諭と SC のコミュニケーションを図ることが必要と考えられる。

※ 問 19「養護教諭と SC の連携」において、①できている、②どちらかと言えばできていると回答した場合を「連携できている群」、③どちらかと言えばできていない、④できていないと回答した場合を「連携できていない群」とした。

2 事例研究

(1) 研究の目的

養護教諭とスクールカウンセラーが連携した実践事例について分析・検討し、有効な支援・連携の在り方について理解を深める。

(2) 研究の方法

ア 事例の収集

「東京都公立学校における養護教諭とスクールカウンセラーの連携に関する調査」において、スクールカウンセラーとの連携事例がある場合、学校に事例を提出してもらった。

事例記入者は、事例記入用紙に記載している7項目（①～⑦）について、◎（重点的に取り組んだ内容）、○（取り組んだ内容）を選び、事例を記入することとした。

【 事例の件数（内訳） 】

（複数回答）

項 目 校種 (事例提出数)		① 児童・生徒 に対する 相談・助言	② 保護者・教職員 に対する相談	③ 校内会議等 への参加	④ 教職員や 児童・生徒への 研修や講話	⑤ 相談者への 心理的な見立て や対応	⑥ ストレスマネジ メント等の 予防的対応	⑦ 事件・事故等の 緊急対応におけ る被害児童・生徒 の心のケア
小学校 (232 件)	◎	59	73	5	6	14	3	2
	○	123	116	105	44	63	20	14
	合計	182	189	110	50	77	23	16
中学校 (138 件)	◎	37	30	1	3	7	4	1
	○	63	57	43	28	46	18	10
	合計	100	87	44	31	53	22	11
高校 ※（中等含む） (32 件)	◎	16	8	0	1	3	1	0
	○	14	20	13	9	13	3	5
	合計	30	28	13	10	16	4	5

※本調査結果において校種別に分ける際、高等学校（全日制・定時制・通信制）中等教育学校を合わせて「高校(中等含む)」とした。

イ 事例の読み込み

ウ 事例の選定（3つの選定基準を設定し、選定する）

【選定基準】

- 1 養護教諭が中心となり、スクールカウンセラーと連携した相談活動等を展開している。
- 2 学校全体で、組織的に対応し、効果が見られている。
- 3 スクールカウンセラーの専門性を生かしている。

※専門性：問題ケースに対する心理的見立て、児童・生徒理解に対する指導・助言、医療機関への紹介等

※選定基準1～3については、関連する内容のキーワードを事例1（P17）、事例2（P18）に*1～*3と表記する。

※ 事例を選定するに当たり、「東京都公立学校における養護教諭とスクールカウンセラーの連携に関する調査」の問 23「養護教諭とSCが連携している内容」（8ページ）の結果等を参考にし、相談的対応と予防的対応の2事例を選定した。

エ 選定した2事例の情報・資料の収集（聞き取り調査の実施）

オ 事例の分析

「事例 1」 ～スクールカウンセラーの専門的な指導・助言を活かした事例(小学校)～

1 状況や背景

該当児童は、入学当初から問題行動等を起こし、目立っていた。学級担任は、1年の時から配慮をしながら対応を進めてきたが、2年になり、他の児童への暴力や授業妨害等を繰り返し、トラブルが多くなった。家庭環境においては養育困難な状況が見受けられ、なかなか保護者からの協力が得にくかった。子供家庭支援センター等の関係機関から「愛着障害の疑い」という見立てを受けて対応していたが、学級担任は該当児童の対応等について、不安を抱えていた。

2 対応及び活動内容

- ・ 養護教諭は学級担任等との情報交換を踏まえ、該当児童の様子や対応等についてスクールカウンセラーに相談した。
 - ・ 校内の相談体制として、※**特別支援校内委員会**^{*2}がある。特別支援校内委員会において、該当児童への適切な指導・支援について検討を行った。その際、スクールカウンセラーから、該当児童の特性や「愛着障害についての支援のポイント」等について、**専門的な指導・助言**^{*3}を受けた。この指導・助言を基に、学年で統一した対応、声掛けを行うことを確認するとともに、副校長、養護教諭、スクールカウンセラーがそれぞれ1対1で関わる時間を設定することとした。また、定期的に該当児童に関わる教職員が集まり、それぞれの対応について情報共有すること、また、保護者への連絡は学級担任が、子供家庭支援センターへの連絡は管理職が、区教育相談室への連絡はスクールカウンセラーが行うといった役割を分担することを決め、継続的に対応した。
- ※特別支援校内委員会は、月1回程度開催し、情報の共有及び対応の検討、研修会の企画等を行っている。メンバーは、校長、副校長、主幹教諭、生活指導主任、保健主任、教育相談主任、養護教諭、スクールカウンセラーである。養護教諭は、特別支援校内委員会の**コーディネーター的役割**^{*1}を担っている。

3 結果・ポイント、工夫したこと

- ・ 該当児童は、少しずつ落ち着いた態度を見せるようになってきた。
- ・ 該当児童と保護者は、子供家庭支援センター等の関係機関と直接つながらなかったが、学校は継続的につながり、学校と家庭、関係機関が情報を共有しながら該当児童の対応を進めた。
- ・ 特別支援教育コーディネーターである養護教諭が、教職員への連絡・調整を行い、教員が抱えている悩みや情報等を共通認識できるような場を定期的に設定した。そして、スクールカウンセラーの指導・助言により、児童の理解を深め、具体的な指導・支援方法を知り、組織的に対応した。

<考察>

スクールカウンセラーの専門的な指導・助言により、教員は、児童の抱える問題やその対応について理解を深めることができ、適切な指導・支援につながった事例である。困難ケースに対し、情報交換にとどまることなく、副校長、学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー、それぞれの役割を明確にし、対応について共通理解を図りながら、保護者や関係機関と連携を進めた。

「事例 2」～スクールカウンセラーと連携した「心の健康」に関する指導の実践（中学校）～

1 状況や背景

全校生徒 266 人（1 学年 86 名、2 学年 89 名、3 学年 91 名）の中規模校である。

養護教諭は、事前のアンケート調査の結果や日常の生徒の言動等から、生徒の人間関係づくりやコミュニケーションに課題があり、その課題解決に向け、「心の健康」に関する指導が必要と考えた。指導を計画する際、養護教諭は、心の専門家であるスクールカウンセラーからの指導・助言及び学級担任・養護教諭等とのティームティーチングを行う必要があると考え、※**特別支援校内委員会**^{*2}で提案し、心の健康に関する指導を実施した。

2 対応及び活動内容

(1) 実施前

- 平成 24 年度末、**養護教諭とスクールカウンセラーが指導計画を立案した。**^{*1}
特別支援校内委員会^{*2}で提案し、指導内容・方法等の検討をした。
 - 平成 25 年度当初、「心の健康」に関する指導を全学年実施することを**職員会議で提案**
し、共通理解^{*2}を図った。
 - 指導計画や学習指導案を作成する際、思春期の生徒の実態・ニーズに即した内容を取り入れる等、スクールカウンセラーから**専門的な指導・助言**^{*3}を受けた。
- ※ 特別支援校内委員会は週 1 回開催し、メンバーは、校長、副校長、各学年特別支援担当、教育相談主任(コーディネーター兼任)、養護教諭、スクールカウンセラーである。

(2) 実施

- 平成 25 年度 1～3 学期、学級担任や養護教諭がスクールカウンセラーとティームティーチングで「心の健康」に関する指導を実施した。

第 1 学年：主題「自分を知る」(学級活動)	2 時間
1 学期に養護教諭と都スクールカウンセラーによる指導	
第 2 学年：主題「人との関わり」(道徳)	1 時間
3 学期に学級担任と区スクールカウンセラーによる指導	
第 3 学年：主題「心のコントロールの仕方」(道徳)	1 時間
2 学期に学級担任と区スクールカウンセラーによる指導	

(3) 実施後

- 振り返りカード等から生徒の様子を確認した。

3 結果・ポイント、工夫したこと

- 振り返りカードには、「『心の健康』に関する指導を受けて楽しかった。」「悩みや問題の解決方法を知ることができてよかった。」等の感想が書かれていた。
- 特別支援校内委員会を中心に、全教職員の共通理解を図り、心の問題に関する予防的指導を実施する等、心の健康づくりを推進した。指導をした教員も、生徒理解を深め、日常の指導の充実につながった。
- 都スクールカウンセラーと区スクールカウンセラーは勤務日が異なる。本指導や日常の相談活動に係る情報を共有するため、ノートを活用し、連携を密に図っている。

《参考資料》

「心の健康」に関する指導 学年別指導計画

1 指導のねらい あるがままの自分を受け入れて、自分の心をコントロールする力を身に付け、「心の健康」を保つことができるようになる。

2 指導計画

学年	主題	教科等	項目	主な学習内容	活動	備考 (関連教科等)
1	自分を知る (自己肯定感)	学級活動	自分を知ろう。	○「心」についての授業であることを知りつつ、リラックスをする。 ○セルフエスティームの測定	・アイスブレイキング等のゲーム ・セルフエスティーム ・エゴグラム	教科：保健体育（保健分野） 内容：心身の機能の発達と心の健康
			自分のよさを見つけよう。	○自分や友だちには、たくさんのよさがあることに気付く。 ○自分のよさを見付け伸ばす。	グループによる活動 ・ハートメモ ・10の私	
2	人との関わり（他との関わり）	道徳	人との関わり合い方を考えよう。	○よりよい人間関係を築くためにはコミュニケーションが大切であることを理解する。	グループによる活動 ・共同絵画	
			人とよりよい関わり合いをもつための表現方法を考えよう。	○自分や相手を大切にしたい自己表現の仕方を考える。	グループによる活動 ・アニメキャラクターを使ったロールプレイング	
3	心のコントロールの仕方（自己管理能力）	道徳	「心の健康」を維持し、自分の心をコントロールする力を身に付けよう。	○物事の受け止め方、考え方によって、心に元気が出ることに気付く。 ○「心の健康」を維持するために、悩みや困難にぶつかった時、必ず何らかの解決方法があることを理解する。	グループによる活動 ・考え方をチェンジ ・ブレインストーミング（対処方法を考える。）	

*第2学年の指導内容や全学年の活動内容については、各学年の実態に合わせて、内容、活動を選択していく。

3 評価

- ・自分や友だちにはたくさんのよさがあり、それに気付き、伸ばそうとする意欲がもてたか。
- ・よりよい人間関係を築くためには、他者とのコミュニケーションを図ることが大切であることを理解できたか。
- ・人とよりよい関わり合いを持つためには自分も相手も大切にしたい自己表現が大切であることを理解することができたか。
- ・「心の健康」を保つために、悩みや困難にぶつかった時には必ず自分にあった解決方法があることを理解することができたか。

<考察>

養護教諭が生徒の心の健康づくりを重要な課題と捉え、その課題解決のため、問題やトラブルを未然に防止する予防的指導等を組織的・計画的に進めた事例である。特別支援校内委員会が中心となり、授業時数の確保や指導内容の確認をするため学年や教科との連絡・調整を行うとともに、指導に対する全教職員の共通理解を図った。また、思春期の心の発達に即した指導を進めていくに当たり、スクールカウンセラーを有効に活用した。

V 研究のまとめ

1 研究の結果

(1) 連携の実態

- ア スクールカウンセラーに対し、多くの養護教諭が、児童・生徒や保護者の心のケアや教職員への専門的な助言を必要としているということが分かった。
- イ 児童・生徒の心の健康問題に適切に対応するためには、養護教諭とスクールカウンセラーが情報を共有したり、教職員がスクールカウンセラーと連携をとることができる環境や組織を整備したりすることが大切であることが分かった。
- ウ 一部の学校では、スクールカウンセラーが分掌組織に位置付けられていないこと、情報交換等の組織的対応が進んでいないことや、スクールカウンセラーの担う役割に対する理解不足や学校内のニーズが低い現状があることが分かった。

(2) 課題

- ア 全ての学校で、スクールカウンセラー全校導入の趣旨の理解とその担う役割を確認し、共通理解を図るとともに、スクールカウンセラーを組織の一員として明確に校務分掌に位置付けること。
- イ 教員とスクールカウンセラーが、児童・生徒の情報を共有するための時間・場所・機会等の設定を工夫すること。
- ウ 養護教諭自身が、スクールカウンセラー導入に対して理解を深め、学校内では積極的にコミュニケーションを図ること。

2 まとめ

多くの学校においては、スクールカウンセラーの導入に伴い、学校の相談活動がより一層充実するようになっている。

今後、学校においては、さらにスクールカウンセラーに対する認識を深め、組織の一員として校内組織に位置付け、児童・生徒の心の問題に適切に対応していく必要がある。また、養護教諭とスクールカウンセラーがスムーズに連携を図ることが、児童・生徒に対する教員の組織的対応をより円滑にしているという成功事例から、養護教諭とスクールカウンセラーは、相互の専門性を理解し、日常の情報交換と連携に係る関係づくりに努めることが大切である。

様々な児童・生徒の心の問題に適切に対応していくためには、養護教諭自身が、スクールカウンセラー導入の趣旨を深く理解し、学校内外の関係者や関係機関と連絡・調整を行うことにより、学校全体の教育相談・カウンセリング機能を充実させることが重要である。今後とも、教育相談・カウンセリング機能の充実に向け、養護教諭として研究を深め、よりよい児童・生徒指導を目指して研鑽を積むことが必要と考える。

【 参考・引用文献 】

- 「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために～学校全体としての取組を進めるための方策について～（答申）」
中央教育審議会 平成20年1月
- 「児童生徒の教育相談の充実について－生き生きとした教育相談体制づくり－報告」 文部科学省
- 「子どもの心のケアのために～災害や事件・事故発生時を中心に～」 文部科学省 平成22年7月
- 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」 文部科学省 平成21年3月
- 「スクールカウンセラー活用ガイドライン」 東京都教育庁指導部指導企画課 平成25年4月
- 「多様な人材を活用した健全育成の推進」 東京都教育庁指導部指導企画課
- 「北海道内中学校における養護教諭とスクールカウンセラーとの連携に関する実態調査」 北海道教育大学紀要 平成16年9月

東京都公立学校における

養護教諭とスクールカウンセラーの連携に関する調査 集計結果一覧

問	校種	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
問1	全体	869	463	91	29	4											
問2	全体	61	103	222	318	253	222	123	79	42	24						
	小学校	27	58	118	206	154	151	77	43	22	8						
	中学校	23	38	100	111	85	58	32	9	5	1						
	高校(中等含む)	11	7	4	1	14	13	14	27	15	15						
問3	全体	337	188	293	394	232											
	小学校	211	117	164	219	149											
	中学校	100	53	95	142	72											
	高校(中等含む)	26	18	34	33	11											
問4	全体	318	286	228	168	170	281										
	小学校	199	170	133	100	97	167										
	中学校	93	98	69	46	61	94										
	高校(中等含む)	26	18	26	22	12	20										
問5	全体	1135	696	465	934	158	2										
	小学校	721	465	322	673	120	2										
	中学校	370	157	129	239	25	0										
	高校(中等含む)	44	74	14	22	13	0										
問6	全体	1032	366	650	185	86											
	小学校	614	219	414	111	48											
	中学校	376	106	191	42	28											
	高校(中等含む)	42	41	45	32	10											
問7	全体	835	412	19													
	小学校	419	314	11													
	中学校	315	93	8													
	高校(中等含む)	101	5	0													
問8	全体	373	1344														
	小学校	215	865														
	中学校	118	408														
	高校(中等含む)	40	71														
問9	全体	311	654	344	302	69	37										
	小学校	245	422	204	148	43	18										
	中学校	57	198	119	120	18	14										
	高校(中等含む)	9	34	21	34	8	5										
問10	全体	1527	17	15	169												
	小学校	949	16	7	112												
	中学校	473	0	2	53												
	高校(中等含む)	105	1	6	4												
問11	全体	962	339	104	9	4											
	小学校	518	239	77	5	3											
	中学校	333	92	26	4	1											
	高校(中等含む)	111	8	1	0	0											
問12	全体	888	485	22													
	小学校	569	249	10													
	中学校	270	176	4													
	高校(中等含む)	49	60	8													
問13	全体	158	146	202	37	178											
	小学校	50	87	95	14	97											
	中学校	76	44	90	22	56											
	高校(中等含む)	32	15	17	1	25											

注) 複数回答設問は、設問番号を
薄い灰色、5つ以内選択の複数回
答設問は濃い灰色とした。

問	校種	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
問14	全体	217	1164														
	小学校	176	657														
	中学校	0	435														
	高校(中等含む)	41	72														
問15	全体	205	51	247	673	36	457										
	小学校	66	10	111	386	18	352										
	中学校	118	17	120	261	8	67										
	高校(中等含む)	21	24	16	26	10	38										
問16	全体	1333	74														
	小学校	789	54														
	中学校	442	6														
	高校(中等含む)	102	14														
問17	全体	805	393	17													
	小学校	446	255	15													
	中学校	293	113	2													
	高校(中等含む)	66	25	0													
問18	全体	689	664	911	554	971	1098	130	902								
	小学校	290	283	496	271	492	607	57	487								
	中学校	346	292	334	221	393	404	59	337								
	高校(中等含む)	53	89	81	62	86	87	14	78								
問19	全体	797	494	80	15												
	小学校	429	336	53	9												
	中学校	296	128	19	3												
	高校(中等含む)	72	30	8	3												
問20	全体	1323	37														
	小学校	788	31														
	中学校	432	4														
	高校(中等含む)	103	2														
問21	全体	769	466														
	小学校	394	349														
	中学校	327	72														
	高校(中等含む)	48	45														
問22	全体	341	252	90	35												
	小学校	95	186	64	26												
	中学校	235	52	10	5												
	高校(中等含む)	11	14	16	4												
問23	全体	1317	858	1068	971	832	445	954	127	370	258	137	733	16			
	小学校	786	606	627	554	436	266	570	59	228	161	106	407	9			
	中学校	429	224	360	330	313	145	323	57	90	88	26	269	3			
	高校(中等含む)	102	28	81	87	83	34	61	11	52	9	5	57	4			
問24	全体	906	534	577	177	152	612	44	65	459	113	65	218	786	137	272	34
	小学校	522	317	421	112	78	294	29	31	260	75	22	139	505	82	156	23
	中学校	328	169	128	49	64	250	8	25	143	26	31	55	233	45	100	6
	高校(中等含む)	56	48	28	16	10	68	7	9	56	12	12	24	48	10	16	5
問25	全体	1197	606	831	970	638	954	771	18								
	小学校	711	356	457	547	403	577	465	10								
	中学校	393	211	310	355	197	313	250	4								
	高校(中等含む)	93	39	64	68	38	64	56	4								
問26	全体	1028	235	430	108	54	57	184	154								
	小学校	623	132	289	80	28	39	142	87								
	中学校	329	88	113	23	20	12	40	53								
	高校(中等含む)	76	15	28	5	6	6	2	14								
問27	全体	850	390	974	832	399	220	678	34	140	159	212	505	3			
	小学校	474	278	579	488	209	140	408	18	83	91	132	304	0			
	中学校	300	98	321	261	154	59	223	14	32	56	71	165	1			
	高校(中等含む)	76	14	74	83	36	21	47	2	25	12	9	36	2			

調査用紙

東京都公立学校における養護教諭とスクールカウンセラーの連携に関する調査

【記入の仕方】

注1) 現任校の状況ならびに、今年度勤務している※スクールカウンセラー（以下SCとする。）について回答してください。（問28の事例を除く。）

※スクールカウンセラーとは、臨床心理士、精神科医、臨床心理の専門性を有する大学の教授等である。（参考：東京都におけるスクールカウンセラーの資格要件）

注2) 問1から問27については、あてはまる番号を別紙「回答用紙（マークシート）」に記入してください。

なお、各校間に回答番号を記載しますので、回答用紙に記載している回答番号の欄に記入してください。

注3) 問28については、事例がなければ、事例記入用紙に記入してください。

1 あなた自身（養護教諭）及び現任校について

問1 勤務している校種について、あてはまる番号を選んでください（小中一貫校については、該当する校種を選んでください）。 <回答番号1>

- ① 小学校
- ② 中学校（附属中学校含む）
- ③ 高等学校（全日制課程）
- ④ 高等学校（定時制・通信制課程）
- ⑤ 中等教育学校

問2 在籍児童・生徒数（5月1日現在）について、あてはまる番号を選んでください。 <回答番号2>

- ① 1～100人 ② 101～200人 ③ 201～300人 ④ 301～400人 ⑤ 401～500人
- ⑥ 501～600人 ⑦ 601～700人 ⑧ 701～800人 ⑨ 801～900人 ⑩ 901人以上

問3 養護教諭としての経験年数は何年目ですか。あてはまる番号を選んでください。 <回答番号3>

- ① 1～5年目 ② 6～10年目 ③ 11～20年目 ④ 21～31年目 ⑤ 31年目以上

問4 現任校での在籍年数は何年目ですか。あてはまる番号を選んでください。 <回答番号4>

- ① 1年目 ② 2年目 ③ 3年目
- ④ 4年目 ⑤ 5年目 ⑥ 6年目以上

問5 養護教諭が位置付けられている校内の分掌組織について、あてはまる番号を選んでください。（複数回答可）

※例えば、保健師を選択する場合、保健・美化部等、若干の名称の違いも含む。 <回答番号5>

- ① 生活指導部 ② 保健部 ③ 教育相談部 ④ 特別支援校内委員会 ⑤ その他
- ⑥ 位置付けられていない。

問6 担当している役割等について、あてはまる番号を選んでください。（複数回答可） <回答番号6>

- ① 保健主任
- ② 教育相談に関する主任または主担当
- ③ 特別支援教育コーディネーター
- ④ なし ⑤ その他

2 現任校に、現在配置されているSCについて

問7 SCは何人配置されていますか。あてはまる番号を選んでください。 ※都のほか、区市町村配置も含まれます。巡回相談員は含みません。 <回答番号7>

- ① 1人 ② 2人 ③ 3人以上

問8 SCの性別について、あてはまる番号を選んでください。

- 問8-1 SC1:① 男性 ② 女性 <回答番号8>
- 問8-2 SC2:① 男性 ② 女性 <回答番号9>
- 問8-3 SC3:① 男性 ② 女性 <回答番号10>
- 問8-4 SC4:① 男性 ② 女性 <回答番号11>

問9 SCの年齢について、あてはまる番号を選んでください。

- 問9-1 SC1:① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代以上 <回答番号12>
- 問9-2 SC2:① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代以上 <回答番号13>
- 問9-3 SC3:① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代以上 <回答番号14>
- 問9-4 SC4:① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代以上 <回答番号15>

問10 SCが取得している資格及び職業について、あてはまる番号を選んでください。

- 問10-1 SC1:① 臨床心理士 ② 医師 ③ 大学教授 ④ 不明 <回答番号16>
- 問10-2 SC2:① 臨床心理士 ② 医師 ③ 大学教授 ④ 不明 <回答番号17>
- 問10-3 SC3:① 臨床心理士 ② 医師 ③ 大学教授 ④ 不明 <回答番号18>
- 問10-4 SC4:① 臨床心理士 ② 医師 ③ 大学教授 ④ 不明 <回答番号19>

問11 SCは週に何日勤務していますか。あてはまる番号を選んでください。 ※複数のSCが配置されている場合は、全て日数で回答してください。 <回答番号20>

- ① 1日 ② 2日 ③ 3日 ④ 4日 ⑤ 5日以上

問12 通常におけるSC（都）の勤務時間帯について、あてはまる番号を選んでください。 <回答番号21>

- ① 教職員と同じ時間帯 → 問14に進んでください。
- ② 教職員とは異なる時間帯 → 問13に進んでください。
- ③ その他 → 問14に進んでください。

問13 教職員と異なる時間帯で勤務する理由は何ですか。あてはまる番号を選んでください。（複数回答可） <回答番号22>

- ① 児童・生徒対応 ② 教員対応 ③ 保護者対応 ④ 外部機関との対応 ⑤ その他

問14 現任校にSCが配置されたのはいつですか。あてはまる番号を選んでください。 <回答番号23>

- ① 平成25年度から（今年度初めて配置された。）
- ② 平成24年度以前から

問15 SCが位置付けられている校内の分掌組織について、あてはまる番号を選んでください。（複数回答可） ※例えば、保健師を選択する場合、保健・美化部等、若干の名称の違いも含む。 <回答番号24>

- ① 生活指導部 ② 保健部 ③ 教育相談部 ④ 特別支援校内委員会 ⑤ その他
- ⑥ 位置付けられていない、または不明

問16 SCが相談活動に使用する※専用の部屋（カウンセリングルーム又は相談室等）は、ありますか。あてはまる番号を選んでください。 ※校が配置図に明記しているもしくは、部屋の表示があるなど、児童・生徒、保護者、全教職員に周知されている。 <回答番号25>

- ① ある → 問17に進んでください。
- ② ない → 問19に進んでください。

問17 SCが相談活動に使用する専用の部屋は、相談者のプライバシーに十分配慮されていますか。あてはまる番号を選んでください。 <回答番号26>

- ① 配慮されている。
- ② 十分とは言えないが、ある程度配慮されている。
- ③ 配慮されていない。

問 18 SCが相談活動に使用する専用の部屋の机に設置されている物品について、あてはまる番号を選んでください。(複数回答可) <回答番号 27>

- ① 外線電話 ② 内線電話 ③ エアコン ④ 施錠できるロッカー・棚 ⑤ 執務机
⑥ 広域セット (ソファ等) ⑦ バンコン ⑧ ついたて

3 養護教諭とSCの連携状況について

問 19 養護教諭とSCは連携できていると思いますか。あてはまる番号を選んでください。 <回答番号 28>

- ① そう思う。 ② どちらかと言えばそう思う。
③ どちらかと言えばそう思わない。 ④ そう思わない。

問 20 養護教諭とSCは情報交換を行っていますか。あてはまる番号を選んでください。 <回答番号 29>

- ① 行っている。 → 問 21 に進んでください。
② 行っていない。 → 問 23 に進んでください。

問 21 問 20 の情報交換は、分掌部会や教育相談会、特別支援教育推進委員会等、※校内で設定している会議において行っていますか。あてはまる番号を選んでください。※記載で位置付けている会議を示す。養護教諭とSC等における個別の情報交換は含まない。 <回答番号 30>

- ① はい → 問 22 に進んでください。
② いいえ → 問 23 に進んでください。

問 22 問 21 の情報交換を行う会議はどれくらいの頻度で行っていますか。 <回答番号 31>

- ① 週に1回以上行っている。
② 月に1回程度行っている。
③ 学期に1回程度行っている。
④ その他

問 23 養護教諭とSCが連携している取り組みの具体が内容について、あてはまる番号を選んでください。(複数回答可) <回答番号 32>

- ① 児童・生徒に対する相談・助言
② 校内巡回等による児童・生徒理解
③ 保護者に対する助言・援助
④ 教職員に対する専門的助言
⑤ 養護教諭に対する専門的助言
⑥ 管理職に対する専門的助言
⑦ いじめ・不登校・特別支援教育等の課題に関する専門的助言 (校内会議等への参加を含む)
⑧ 保健指導・学習への参画・専門的助言
⑨ 校内研修等の企画・運営への参画
⑩ 保護者を対象とした講話・講演
⑪ 発達検査等の実施
⑫ 医療機関・専門機関の紹介
⑬ 特になし

問 24 養護教諭とSCが連携して行っている相談・助言の具体が内容について、あてはまる番号を5つ以内で選んでください。 <回答番号 33>

- ① 不登校・登校しぶり ② 友人関係 ③ 問題行動 ④ 学習 (進路を含む)
⑤ いじめ ⑥ 情緒不安定 (精神疾患を含む) ⑦ 生活習慣
⑧ 身体・健康 ⑨ 家庭・家族 ⑩ 虐待 ⑪ 自己理解
⑫ 性格・行動 ⑬ 発達障害 (疑いを含む) ⑭ 話し相手
⑮ 医療機関・専門機関の紹介等 ⑯ 特になし

問 25 養護教諭がSCと連携する上で利点があると感じている場合、あてはまる番号を選んでください。(複数回答可) <回答番号 34>

- ① SCから専門的な知識や支援を得られる。
② 専門機関との連携がとやすくなる。
③ 養護教諭とSCが役割分担して児童・生徒を支援できる。
④ 不登校児童・生徒および保護者の支援が充実する。
⑤ 友人関係の悩みやいじめに対して、早期対応ができる。
⑥ 児童・生徒に対する理解が深まる。
⑦ 養護教諭と担任等が連携する際に、SCが専門的に関わることで、連携が深まる。
⑧ 特になし

問 26 養護教諭がSCと連携する上で困難を感じている場合、あてはまる番号を選んでください。(複数回答可) <回答番号 35>

- ① SCの勤務日が限られているため、密に連絡をとれない、またはタイムリーに連携できない。
② SCが相談活動等に忙しく、情報交換の時間がとれない。
③ 養護教諭が保健室対応等に忙しく、情報交換の時間がとれない。
④ 校内分掌組織におけるSCとの連携担当が養護教諭ではない。
⑤ SCと養護教諭の考え方が合わない。
⑥ SCが情報交換に対し、消極的である。
⑦ SCの複数配置により、SC間の調整 (情報共有、対応等) が難しい。
⑧ 特になし

問 27 現在すでに実施していることも含め、あなたがSCに期待することについて、あてはまる番号を5つ以内で選んでください。 <回答番号 36>

- ① 児童・生徒に対する相談・助言
② 校内巡回等による児童・生徒理解
③ 保護者に対する助言・援助
④ 教職員に対する専門的助言
⑤ 養護教諭に対する専門的助言
⑥ 管理職に対する専門的助言
⑦ いじめ・不登校・特別支援教育等の課題に関する専門的助言 (校内会議等への参加を含む)
⑧ 保健指導・学習への参画・専門的助言
⑨ 校内研修等の企画・運営への参画
⑩ 保護者を対象とした講話・講演
⑪ 発達検査等の実施
⑫ 医療機関・専門機関の紹介
⑬ 特になし

これでマークシートの取扱は、終了です。御協力ありがとうございました。

平成 2 5 年度 教育研究員名簿

学校保健

地区	学校名	職名	氏名
世田谷区	世 田 谷 区 立 桜 小 学 校	主幹教諭	関根 美香
立川市	立 川 市 立 第 六 小 学 校	主任養護教諭	◎網代 陽子
小金井市	小金井市立小金井第一小学校	主任養護教諭	末吉 晴子
東村山市	東村山市立久米川東小学校	主任養護教諭	田岡 朋子
文京区	文 京 区 立 第 九 中 学 校	主任養護教諭	熊谷 雅子
渋谷区	渋谷区立原宿外苑中学校	主任養護教諭	唯野 文
杉並区	杉 並 区 立 東 田 中 学 校	主任養護教諭	久米 裕子
練馬区	練馬区立開進第四中学校	主任養護教諭	古家 ちずる
葛飾区	葛 飾 区 立 双 葉 中 学 校	主幹教諭	森泉 香織
	東京都立一橋高等学校（定時制課程）	養護教諭	井出 知子
	東京都立白鷗高等学校	主任養護教諭	相原 佐知子
	東京都立園芸高等学校（定時制課程）	主任養護教諭	小山 文良

◎世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 田中 妙美

平成 2 5 年度

教育研究員研究報告書

小・中・高合同・学校保健

東京都教育委員会印刷物登録

（平成 2 5 年度第 1 9 3 号）

平成 2 6 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 （0 3）5 3 2 0－6 8 3 6

印刷会社 昭和商事株式会社